

## 八ヶ岳 赤岳東稜～真教寺尾根下降

小川

【日時】 2007年3月31日(土)～4月1日(日)

【メンバー】 L小暮、笹川、小川

就活の合い間の春休み、ということで大学生と阿弥陀北稜、のち小暮さんがたの赤岳東稜（当初は不帰Ⅲ峰だった）に参加、というよくばりプランを小暮さんに無理言ってたてた。ふたをあければ阿弥陀は朝からの雷雨で行者小屋にて敗退決定したが、後半の赤岳東稜のナイフエッジは晴天に恵まれなかなかのものであった。

上述の通り、金曜の阿弥陀北稜が行者小屋で敗退したため、早めに下山して茅野駅でブラブラする。何年か前に来た時より駅が新しくなっただけでなく、石〇スポーツがなくなっていたのにはショックだった。小淵沢駅へ移動してお二人に拾ってもらい、甲斐大泉にて駅寝。

翌31日、清里スキー場の少し下から出発。堤防の続く大門沢をたどっていく。昨日の雨のおかげで雪が堅くなっており、気持ちよく歩いていく。最後の堤防あたりから樹林が濃くなり視界が効かなくなるが小暮さんがガシガシと進むので必死についていく。

2回の休憩を挟んであっという間にゴルジュが特徴の二俣(2250m)へ着く。1月に来たことのある笹川さんはあまりの順調さに驚いていた。

雪の状態が良いのでこのまま沢沿いに高度を稼ごうと左俣へ進路をとると、赤岳山頂と頂上小屋が東稜を超えてすぐ近くに見える。デブリがある沢をしばらく登り、傾斜の緩い所を選んで東稜へ取り付く(2450mくらい)。ここでアイゼンをつける。まだ12時前で「今日中に越えられますかねー」と話しつつ登ると、幕営跡と岩壁が現れる。いわゆる第一岩峰で、しばらく相談したのち今日中に越える事にす。笹川さん曰く「前はここまで二日目の昼までかかったのに…」。

まず小暮さんがリード40m。続いて僕、笹川さんと続く。ブッシュのある壁の右側を通



大門沢の二俣。快適。

る。大して難しくない。

そこから3オンのコンテでトップの小暮さんがランナーを取りつつ進み、小川、笹川さんと続いていく。すぐにナイフエッジ状になり、程好い高度感を楽しみながら登る。目の前には赤岳東面の岩場が広がり、赤岳頂上小屋がさらに近くに見える。これを1時間半程度いくと、岩の露出した第二岩峰にでる。左を巻くのが一番楽だが、直登もさほど難しくないとのことで、小暮さんがまたもリード。中央の稜上を登って姿が消える。しばらくして笛が聞こえたので、僕がFixを登る。所々手がかりが少ない。リードじゃ登りたくない。途中から左へ逃げて、ルンゼの手前で小暮さんと合流。笹川さんをフォローしてから、正面のルンゼを小暮さんが25m程度伸ばす。ここはバイルが効いて快適。笹川さんが以前来たときにはもっと悪かったそう。噂に聞いた棚橋さんのイボイノシシは見つからなかった・・・。

ここからしばらく登れば傾斜が緩み、ほどなく竜頭峰。第二岩峰で時間を使って遅くなった。この時には既にガスに囲まれており山頂はカット。すぐに真教寺尾根へ向かう。堅くなった急斜面を下るところで、僕は小暮さんとコンテで繋がれて下りる。雪とガスでルートが不鮮明で、ルートを探しつつ下る。竜頭峰から1時間半、2480mあたりの緩い樹林帯で幕営。薄暗い中、いそいそと



ナイフエッジと東稜

テントを設営して中に入る。外はけっこう風と雨があり若干浸水気味。夕食の焼肉を堪能。また食べ過ぎた。

翌日、核心を抜けたのでゆっくり起床。外に出れば、快晴の天気。あそこでロープをだして、あそこが核心で一と赤岳東稜を眺めつつボテボテと清里スキー場へ尾根を下っていった。ポカポカ陽気。そういえば今日から四月だった。来年は社会人なのかと思いつつ、グリセードでスキー場を下った。振り返れば赤岳が構えていたが、昨日登った東稜はすでに雪と岩のコントラストに隠れ判然としなくなっていた。

【行程】 3/31 スキー場下P地点(7:30)～ゴルジュ状二俣(10:30)～東稜取付(11:10/30)  
～竜頭峰(16:05) ～BP(17:30)

4/1 起床(7:30)～BP(9:50)～P地点(12:30)

【地図】 八ヶ岳東部、八ヶ岳西部